

東院南方遺跡の発掘調査(平城第 678 次調査)

独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
都城発掘調査部 (平城地区)

調査地 : 奈良市法華寺町

調査期間 : 2025 年 12 月 2 日~2026 年 3 月 6 日

調査面積 : 310 m²(1 区 : 120 m²、2 区 : 40 m²、3 区 : 150 m²)

調査終了後のため、現地公開はありません

概要

2024 年度に続き、平城宮跡の東南に隣接する東院南方遺跡の発掘調査を実施しました。発掘調査により、奈良時代の条坊道路、礎石建物、掘立柱建物、区画塀とみられる柱穴列、木樋溝等が良好に遺存していることを確認しました。東院南方遺跡は、奈良時代前半には条坊道路によって坪ごとに区画され、その内部に建物や関連施設が配置されていたこと、また奈良時代後半に条坊道路を廃した後も、区画塀や建物群を計画的に配置して複数坪を一体的に利用していたことがあきらかになりつつあります。

また、当研究所が推進するフィールドワーク・イノベーションの一環として、発掘調査の常時公開、毎日の定時解説、ライブ配信等、遺跡を「見せる」実験的な取組を実施しました。

1. 調査の経緯と目的

(1) 東院南方遺跡の概要と周辺の調査成果

平城宮の東側は、北側 4 分の 3 が東に張り出し、宮の東南隅を切り欠いた形をなします。東院南方遺跡はその切り欠き部分にあたり、平城京左京二条二坊三・四・五・六坪に該当します (図 1)。

東院南方遺跡の東南部にあたる二条二坊五坪では、開発に伴う事前の発掘調査が多くおこなわれ、いわゆる「二条大路木簡」の内容から藤原麻呂邸が存在した可能性が指摘されています。また五坪とその東に位置する十二坪を、『続日本紀』の天平勝宝元年 (749) 12 月にみえる「宮南梨原宮」や、『東大寺要録』にみえる「梨原荘」の所在地とみる説もあります。このように東院南方遺跡は平城宮に隣接する一等地であり、遺跡東南部の調査成果からも重要遺跡であると想定されてきました。一方で、遺跡の中核部と目される西北部での発掘

調査はこれまで行われておらず、その全貌は未解明のままです。

そこで奈良文化財研究所では、東院南方遺跡の内容をあきらかにするとともに、将来的な遺跡保護の推進に寄与するため、2024年から遺跡中枢部の発掘調査を実施することとしました。奈良時代の土地利用についてあきらかにすることを目的として実施した2024年度の発掘調査（第667次調査）では、奈良時代前半と後半で土地利用方法が異なることがわかりました。すなわち、前半には条坊道路によって1坪ごとに区画されていましたが、後半には条坊道路を廃して4坪分を一体的に利用するという土地利用の変遷があきらかになりました。

(2)調査の目的

2024年度の調査成果を受けて、計画2年目にあたる2025年度の発掘調査（平城第678次調査）は、奈良時代の土地利用の内容や変遷をあきらかにすることを目的とし、次の3つの調査区を設定して実施しました（図2）。

1区：左京二条二坊四坪のほぼ中央に位置します。東西10m、南北12m、調査面積は120㎡です。

目的：四坪内での建物や区画の有無、配置についての様相解明。

2区：東二坊々間西小路想定部分に位置します。東西12m、南北3mで、北西部に2×2mの拡張区を設けました。調査面積は40㎡です。

目的：平城第667次調査であきらかになった条坊道路の変遷を南半（四、五坪）においても確認。

3区：左京二条二坊三坪の中央、南よりに位置します。東西5m、南北30mで調査面積は150㎡です。

目的：三坪内での建物や区画の有無、配置についての様相解明。

2. 主な検出遺構

<1区>（図3）

- ・**掘立柱建物1** 調査区北側において検出した総柱建物です。6基分の柱穴が見つかり、調査区の北および西外に続きます。柱掘方は方形で、一辺1.0～1.2m、深さ約0.8m、柱間寸法は3m（10尺）等間に復元できます。なお、東に約2.7m（9尺）の位置で、南北の柱筋を揃える柱穴列を確認しており、これが建物東面の廂になる可能性があります。
- ・**掘立柱建物2** 調査区西北で検出した側柱建物です。4基分の柱穴が見つかり、調査区の北および西外に続きます。柱掘方は方形で、一辺0.7～1.0m、深さは断割調査を実施した1基で約0.8m、柱間寸法は約2.4m（8尺）等間に復元できます。
- ・**東西柱穴列1** 調査区中央やや北よりで3間分検出しました。柱掘方は隅丸方形～円形を呈し、径0.6～0.8m、深さは約0.4m、柱間は約3.0m（10尺）等間に復元できます。東西掘立柱塀あるいは東西棟建物の可能性があります。

- ・**南北柱穴列 1** 調査区東端で4間分検出しました。柱掘方は隅丸方形～円形を呈し、平面規模は径1.0～1.3m、深さは0.8～1.0m、柱間寸法は約2.4m（8尺）等間に復元できます。南北掘立柱塀あるいは南北棟建物の可能性があります。

< 2区 > (図4)

- ・**南北道路（東二坊々間西小路）および東側溝・西側溝** 調査区の中央で南北道路とその東西側溝である素掘溝を検出しました。東側溝の幅は2.4～2.6m、西側溝の幅は上層と下層で異なり、上層が1.8～2.0m、下層が約1.0mで、二段掘り状をなします。南北道路の路面幅は両側溝の心々間距離で約7.0m、東西両側溝は調査区の南北外に続き、西側溝には後述する木樋溝1が接続します。東側溝は深さ約0.6m、西側溝は上層の深さが約0.5m、下層の深さが約0.3mで、埋土からは木片等の有機質遺物が出土しました。両側溝とも東西柱穴列2と重複し、これよりも古く位置付けられます。
- ・**木樋溝 1** 拡張区(2×2m)において東西方向の木樋を据えた溝を検出しました。幅約0.5m、長さ約1.6m分を確認し、東二坊々間西小路西側溝に接続します。掘方の深さは0.6mです。断割調査の結果、この掘方の下層にもほぼ同規模（深さ0.6m）の抜取痕跡が存在しているため、木樋溝1の下層に前身となる木樋を据えた溝が存在していたと考えられます。
- ・**東西柱穴列 2** 調査区北端で3間分を検出しました。拡張区を設けて全体を検出した1基の掘方の大きさは、東西約1.3m、南北約1.6m、深さ約1.0m、柱間は約3.0m（10尺）等間に復元できます。

柱穴2基の断割調査を実施したところ、掘方底面に礎板となる板材2枚を並べていました。板材は長さ110～120cm、幅25～30cm、厚さ5～10cmで、礎板上で柱痕跡とみられる径40cmの円形の痕跡を確認しました。この柱穴列は上記の東西側溝、木樋溝1と重複し、これよりも新しく位置付けられます。なお、この柱穴列のうち調査区東端から2基目の柱穴は、平城第667次調査で検出した南北柱穴列SA12080と柱筋を揃え、かつ約3.0m（10尺）等間の位置に存在することから、両者は一体として機能する逆T字形の区画塀である可能性が高いと考えられます。

< 3区 > (図5)

- ・**二条々間南小路北側溝** 調査区南端において検出した素掘溝で、その平面的位置から平城第667次調査で確認した二条々間南小路北側溝と考えられます。溝の幅は約2.2m、深さ0.3～0.4mで、埋土下層からは、有機質遺物（木製品、自然遺物）が出土しました。
- ・**礎石建物 1** 調査区南端で礎石建物の礎石据付穴2基を検出しました。北側溝を埋めて整地を施した後に建てられた建物です。いずれも礎石は抜き取られていましたが、礎石据付穴には径10～20cmの安山岩の根石が残存していました。南端の礎石据付穴では幅約1.0m、深さ約0.8mの礎石を据え付けるための地業が確認されました。
- ・**掘立柱建物 3** 調査区北端で東西棟の側柱建物を検出しました。梁行2間と推定され、少

なくとも南側には廂が取り付きます。身舎の柱穴4基、廂の柱穴2基を確認し、建物は調査区外の東西に延びます。身舎の梁行、桁行ともに約2.7m(9尺)等間で、身舎と廂の梁行は約2.1m(7尺)に復元できます。身舎の柱掘方は方形で、平面規模は一辺1.0~1.2m、深さ0.5~0.7m、廂の柱掘方は円形で、径0.5~0.6m、深さ0.7~1.0mを測ります。

- ・ **東西溝1** 調査区の中央やや南よりで、幅約1.5m、深さ約0.2mの素掘溝を検出しました。L字溝と重複し、これよりも新しく位置付けられます。
- ・ **東西溝2** 東西溝1の南約3mの位置で、幅約1.0m、深さ約0.2mの素掘溝を検出しました。埋土は東西溝1と共通しており、一体として機能していた可能性が高いと考えられます。東西溝1と東西溝2の心々間距離は約3.6m(12尺)です。
- ・ **L字溝** 調査区中央やや南よりで検出した素掘溝です。幅約0.6m、深さ約0.2mで、東西方向の溝の埋土からは完形の軒平瓦が複数出土しました。また南北方向の溝では、径20~40cmの礫を密接した状態で確認しました。東西溝1と重複し、これよりも古く位置付けられます。
- ・ **大土坑** 調査区東南隅で南北2.2m以上、東西2.4m以上の土坑を検出しました。平面形は西辺よりも東辺が広い台形をなすと考えられます。深さは約0.5mで、埋土の最下層からは木材片や木簡が出土しました。この土坑の西北隅には、幅は約0.4m、深さ約0.4mの小溝が取り付きます。

3. 出土遺物

須恵器、土師器、瓦(軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦)、木製品、木簡等が出土しました。詳細は現在整理中です。

4. まとめ

今回の調査では、平城宮の東南に隣接する東院南方遺跡において、奈良時代の土地利用が大きく変化したことを示す重要な成果が得られました。

特に注目されるのは、奈良時代前半には条坊道路によって坪ごとに区画されていた土地が、後半には道路を廃して4坪を一体的に利用する空間へと再編されていたことです。これは昨年度の平城第667次調査で明らかになった所見を裏付ける成果です。

加えて今回の調査では、遺跡の内部における建物群や施設の配置が、より具体的になりました。1区では掘立柱建物や柱穴列を確認し、四坪の中軸付近に中心をもつ建物群の存在が想定されます。また、2区・3区では、条坊道路とその側溝、木樋溝、区画堀とみられる柱穴列、礎石建物、掘立柱建物、大土坑などを検出しました。これらは、東院南方遺跡が単に道路で区画された土地であっただけでなく、その内部に建物群や排水・区画施設を計画的に配置して利用されていたことを示しています。

奈良時代前半には、条坊道路によって区画された坪の内部に建物や関連施設が配置されていたと考えられます。2区で確認した木樋溝は、周辺に遮蔽施設やそれに伴う施設が存在し

た可能性を示すものです。一方、奈良時代後半には、条坊道路を廃した後も、区画塀や礎石建物、掘立柱建物などを組み合わせて、複数坪にまたがる空間が計画的に構成されていた可能性が高まりました。

以上の成果により、東院南方遺跡では、奈良時代を通じた土地区画の変化だけでなく、その内部における建物群の配置のあり方も明らかになりつつあります。平城宮に隣接するこの区域が、時期ごとに性格を変えながら、計画的に利用された重要な空間であったことを示す成果といえます。

5. フィールドワーク・イノベーション プロジェクトの取組について

(1)概要

遺跡の発掘調査を広く一般に公開する取組「見せる発掘調査」を実施しました。これは、当研究所が昨年度から推進している「フィールドワーク・イノベーション」の一環として試験的に実施したものです。日々刻々と変化する発掘調査の様子が見られる機会を創出するとともに、遺跡の価値や発掘調査の意義を理解いただくことで、遺跡の保護意識の醸成につなげることを目的としました。

(2)実施した内容

「見せる発掘調査」は、3区の調査において実施しました。実施日は2026年1月26日（月）～2月24日（火）のうち計18日間、具体的な内容は以下の通りです（写真）。

○発掘調査現場の常時公開

発掘調査実施日（平日）、毎日9:00～16:00に発掘調査現場を公開しました。発掘調査現場にアクセス可能にするため、平城宮跡の園路と現場の間に仮設の通路（「時をかける橋」）を設置しました。（写真）

○定時解説

発掘調査公開日の14:00～14:30に、発掘調査担当者が遺跡の概要や調査成果について説明する時間を設けました。

○定点ライブ配信

発掘調査公開日の13:15～14:15に、発掘調査現場と平城宮跡資料館をインターネットでつなぎ、現場の様子を資料館入口に設置したモニターで見られるようにしました。

(3)成果と効果

○発掘調査現場の常時公開

1日20～50名程度、最大約200名の来跡者がありました。来場者の多寡は気候の影響もあったと思われますが、報道やSNSの周知により、遠方（県外）からの来訪者やリピーターが一定数いたことも特筆すべきことです。

○定時解説

1日10～20名程度、最大約130名の参加がありました。調査員の説明に熱心に耳を傾けていただくとともに、遺跡や発掘調査に関する様々な質問をいただき、市民の皆さんの関心の高さを窺い知ることができました。

○定点ライブ配信

発掘調査現場へいざなうきっかけの創出を1つの目的として実施し、一部の来跡者にはその効果が見られました。また、今回の配信の技術的成功により、遠隔地との情報共有や研修等への利用に関する見通しを得ることができました。

(4)課題

以上のように、今回の常時公開や定時解説において奈良市内や近隣の方々だけでなく、遠方やリピーターの来訪者が一定数いたことは、発掘調査が観光コンテンツとしての可能性を有していることを示しています。

一方で、今回の常時公開は平日の発掘作業と合わせて実施したため、休日でなければ参加できない方々へはアプローチできませんでした。とくに学生への常時公開や定時解説など教育コンテンツとしての可能性を考慮すると、長期休暇中の実施の必要性等、課題も明らかとなりました。

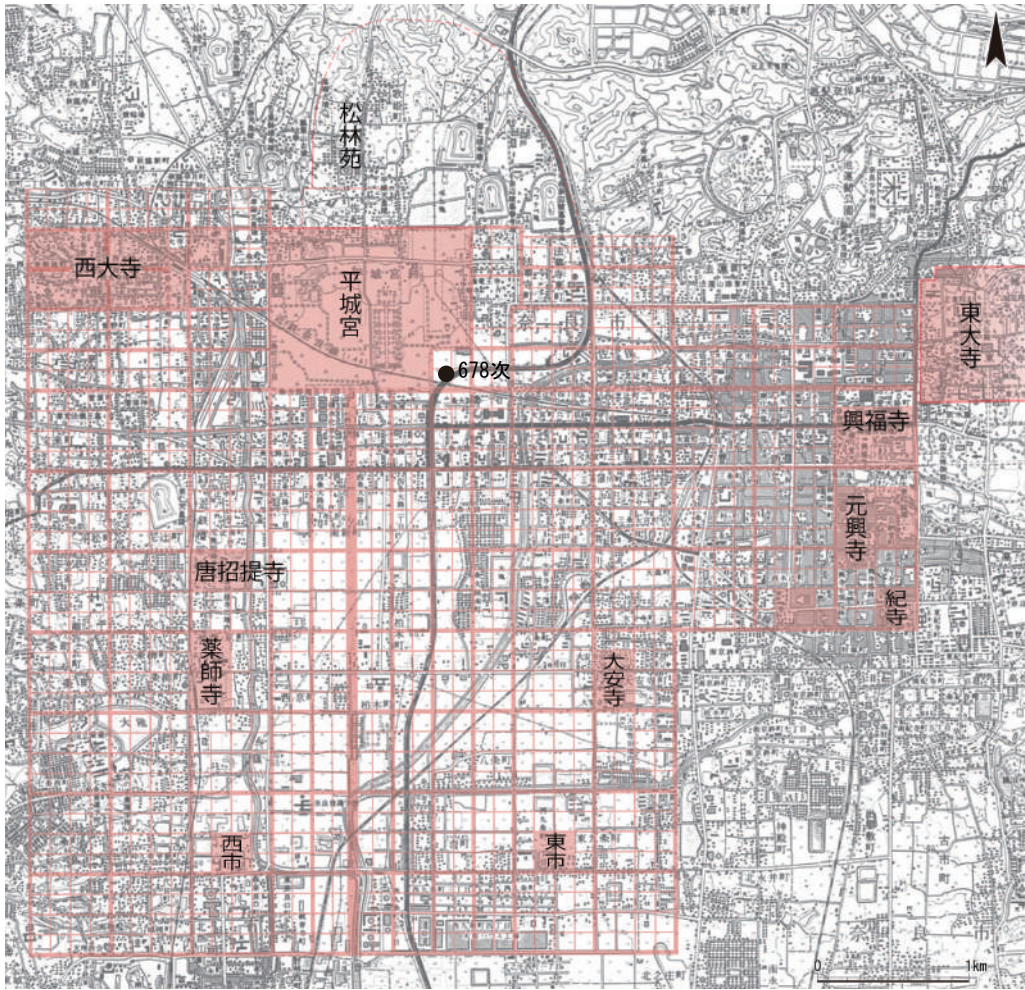


图1 調査区位置図

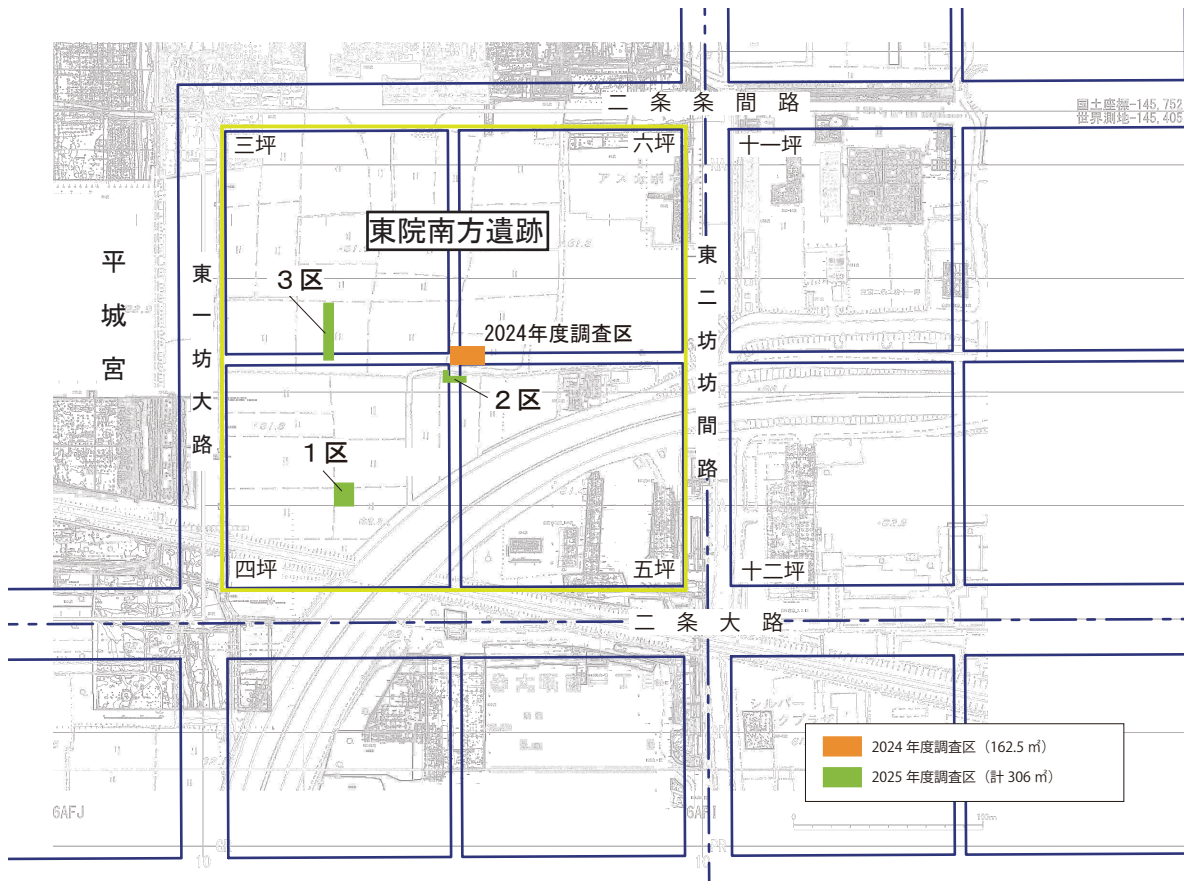


图2 調査区配置図 (1:4000)

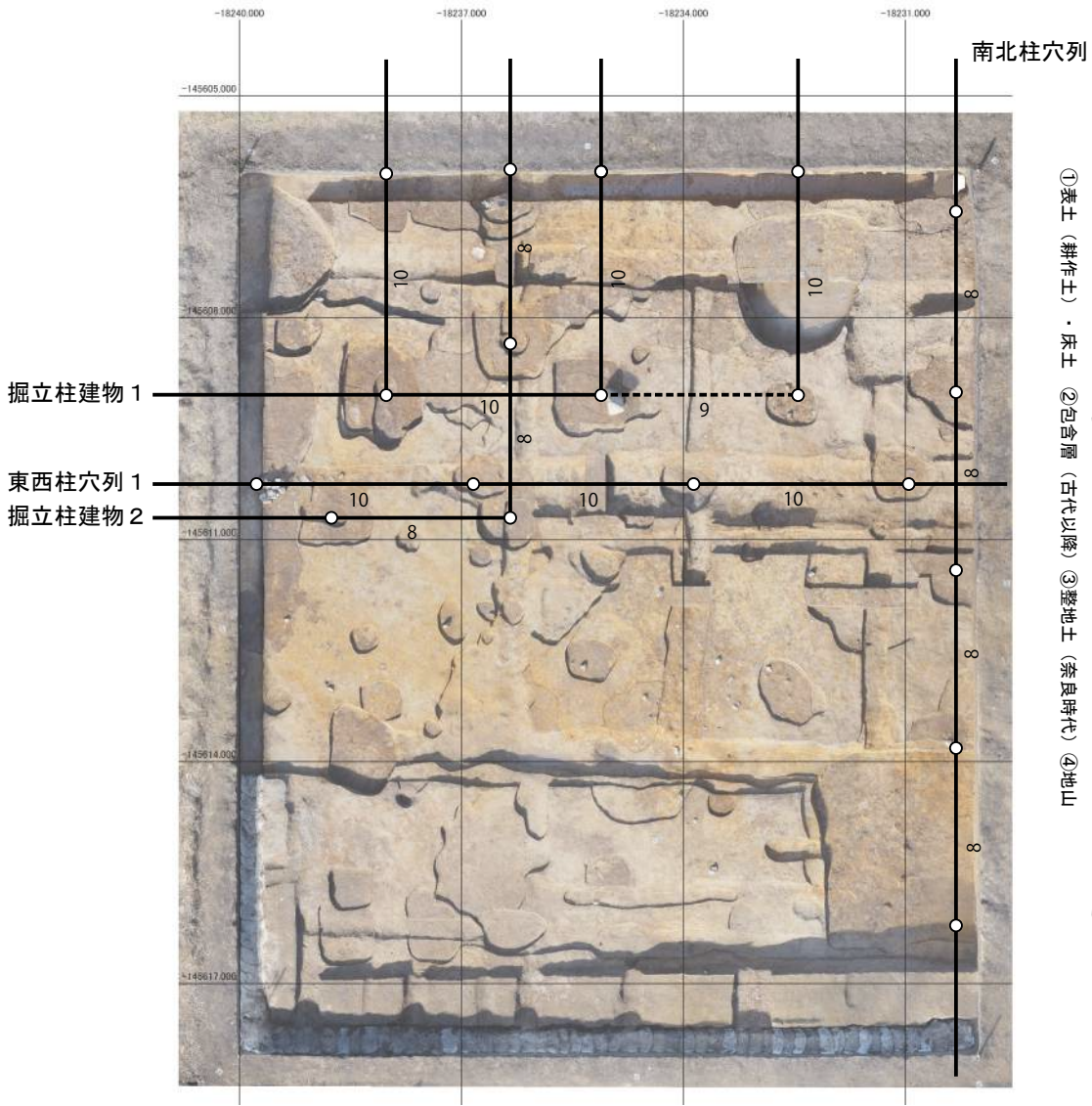
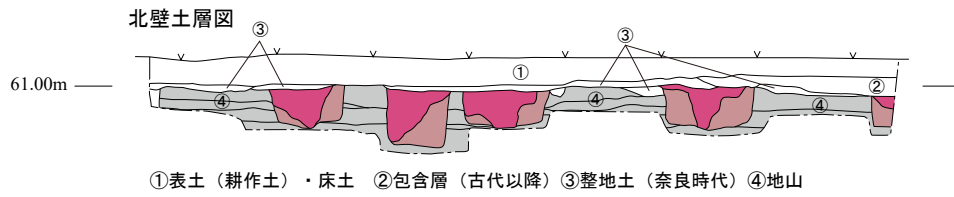
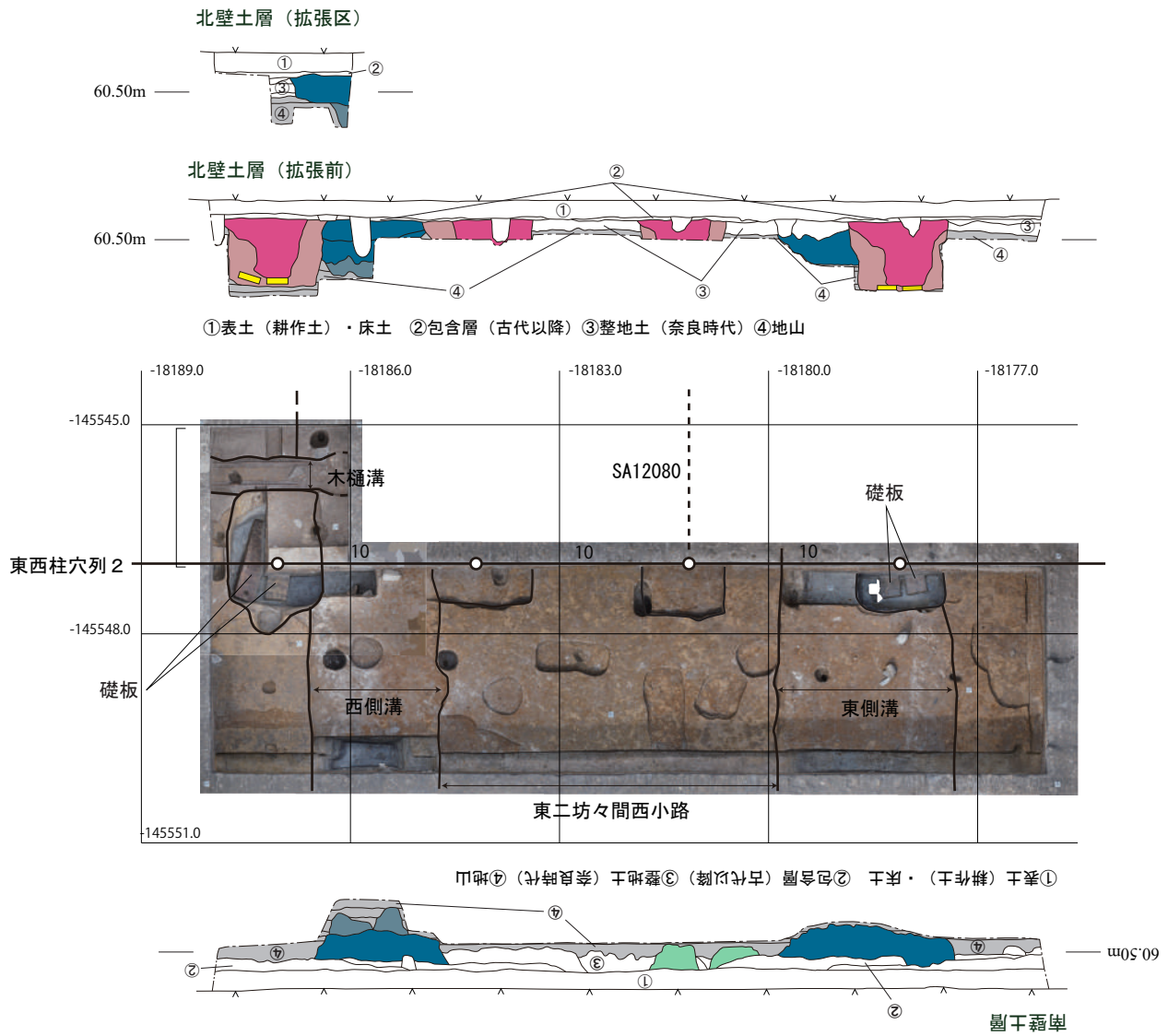


図3 1区遺構平面図・土層図 1:100（上が北）



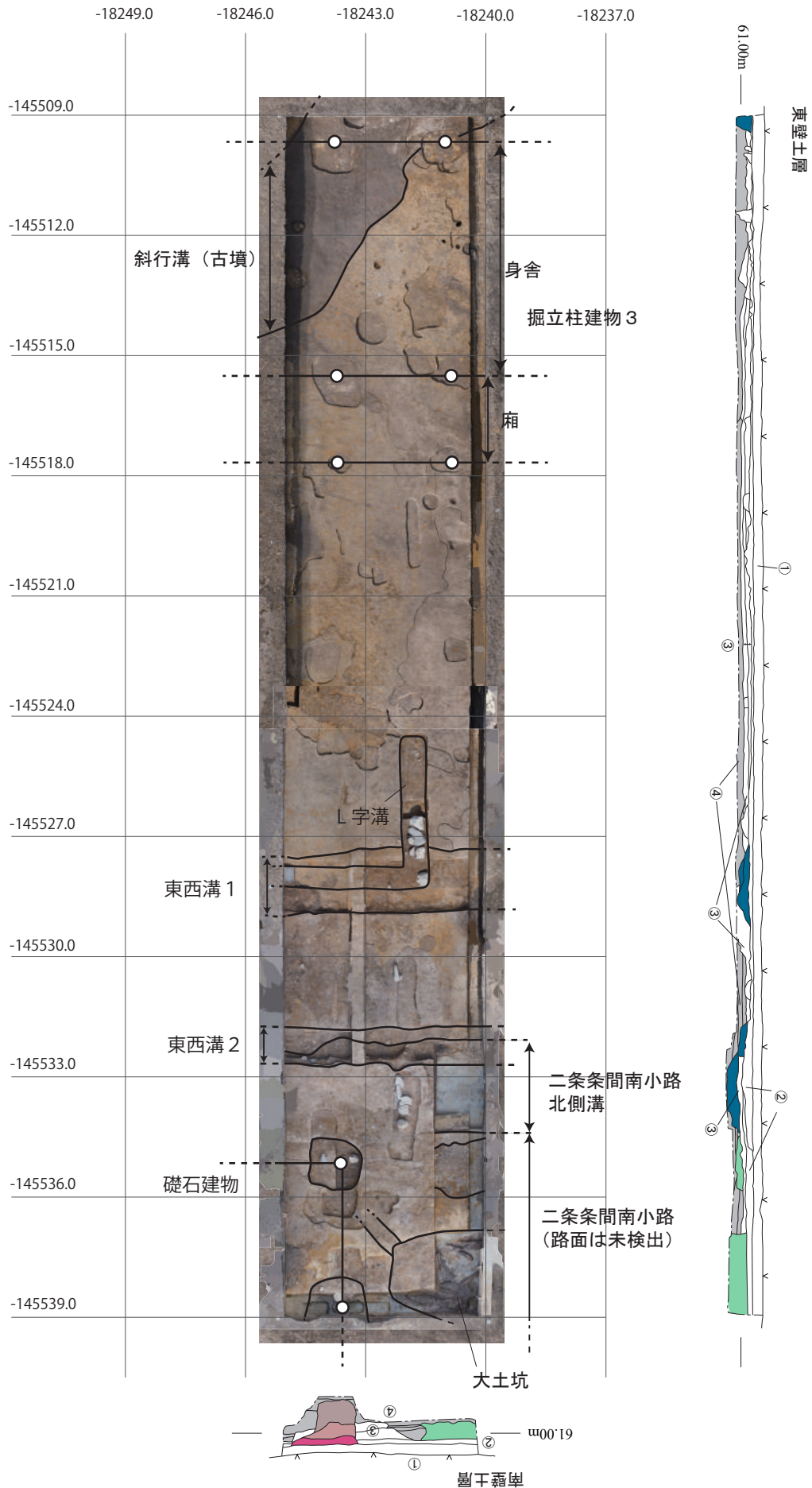


图5 3区遺構平面図 (S=1/150)



1 宮跡から調査現場への誘導通路



2 定時解説風景 (2/24)



3 ライブ配信 (定点)



4 ライブ配信 (平城宮跡資料館)